

リカレント教育が開く新たな可能性



日本銀行 広島支店長
森 成城

新型コロナウイルス感染症は、社会・経済に大きな影響を及ぼしています。コロナ禍により、デジタル化や人工知能(AI)の活用などが広がると聞くと、不安な面もあります。ニューノーマル(新常态)といわれる将来像についても、先行き不透明感があります。

もっとも、人口減少や少子高齢化が進むことを考えれば、今後も人材育成の重要性は変わらず、むしろ高まると考えています。我が国が、乏しい天然資源や狭い国土にもかかわらず、経済成長を実現し、全体として豊かな生活を享受するに至る上で、教育は大きな役割を果たしてきました。コロナ禍がニューノーマルに向けて不可逆的な変化を引き起こすのであれば、その変化に適応できるように人材の再教育が求められると思います。

人生百年時代において、リカレント教育が注目されています。リカレント教育とは、基礎教育の修了後、生涯にわたって教育と他の諸活動(労働、余暇など)を交互に行う教育システムのことで、社会人大学院など学び直しの機会が一例です。コロナ禍を契機にデジタル技術の活用が進めば、リカレント教育が一段と広がるとみえています。我々は、デジタル技術を活用することで、創造性を要する仕事により多くの時間を割くことが可能となり、リカレント教育は、こうした仕事を効果的に進める人材の育成に資するとみているからです。

また、デジタル化の進展は、リカレント教育のコストを下げ、学ぶ機会の増加につなが

るでしょう。たとえば、オンライン教育講座(e-learning)が一例で、企業が従業員のオンライン受講を補助する例もみられます。さらにテレワークが広がれば、オンライン受講も容易になるでしょう。

ここで、私自身の経験を紹介します。私のリカレント教育の始まりは、企業派遣の留学でした。アメリカの大学で大学院経済学研究科の修士課程を修了しました。その四半世紀後の2020年、国内大学で大学院経済学研究科の博士後期課程を修了しました。博士課程は、日本銀行の実務を通じて培った問題意識に基づき、学術的に研究する機会となり、先行研究の成果を踏まえつつ、独創性を加えるため、幾度も壁にぶつかり、指導教官などから助言を得て乗り越えました。これらの研究を通じ、理論と実務を橋渡しする姿勢が涵養かんようされたと思います。

別の経験は、オンライン英語学習講座です。現職で英語を使う機会がなくなる中、これまで培った英語力の維持のため、受講を決めました。そこで発見したことが2点あります。まず、受講しているコースで英会話レッスンを受ける人の多くは、IT関連の企業に勤務する社会人という点です。次に、その人々の殆どはテレワークであるという点です。これらは、コロナ禍により起こる変化を象徴しているようで興味深く思います。リカレント教育は、人生五十年を過ぎた自分にも成長と発見をもたらし、新たな可能性を開いてくれると確信しています。